

11月11日～12月12日
電池月間



でんち

社団法人 **電池工業会**

BATTERY ASSOCIATION OF JAPAN

〒105-0011 東京都港区芝公園3丁目5-8
機械振興会館内

電話 (03) 3434-0261 (代)
E-mail. bajapan@hi-ho.ne.jp
ホームページ <http://www.baj.or.jp/>
振替口座 東京8-91022
発行人 木村侃丘
定価1部郵送による年決め2,400円

平成15年3月1日

BATTERY ASSOCIATION OF JAPAN

平成14年度 第4回環境総合委員会開催

平成15年2月18日、機械振興会館において森脇委員長（三洋電機）を議長に平成15年度第4回環境総合委員会（出席者18名）が開催された。

冒頭森脇委員長より挨拶があり、続いて新任の小原委員（SIIマイクロパーツ）の挨拶の後、事務局報告と課題の審議が行われた。

1. 森脇委員長挨拶

環境規制の動向を見ると、ヨーロッパの廃電気・電子機器（WEEE）指令、日本でも廃掃法の改正などが動いている。そのような中で、本日も重要な報告や審議事項があるので、十分な討議をしていただきたい。

2. 事務局報告

1) 自動車用鉛蓄電池の新回収スキーム案

新回収スキーム案に関し、自動車リサイクル法が施行される（2004年秋予定）前に、完成させ導入する必要がある。進捗状況として、新回収スキーム案について、経済産業省、環境省、公取委と取り組み調整を図っている内容の報告があった。

2) 産業用密閉形鉛蓄電池の新回収スキーム案

進捗状況として、「資源の有効な利用の促進に関する法律」の第27条第1項の規定による、使用済み鉛蓄電池の自主回収及び再資源化に係る認定申請を関係省庁に予備申請した。

また、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の、広域再生利用指定産業廃棄物処理業者に係る指定申請についても、予備申請を順次行う等の報告があった。

3) 「経済的負担措置等基礎調査」について

昨年、環境省の委託を受けて（財）日本環境衛生センターが実施した「経済的負担措置等基礎調査」の報告書が、1月に発行された。その経過や内容に関する報告があった。

4) 廃棄物処理法改正案について

環境省より廃棄物処理法改正案の条文が関連省庁に出され検討されている。この改正案は電池業界にとっても影響大であるため、その内容や動向、問題点等について詳細報告された。

5) 小形二次電池再資源化推進センター活動状況

会員数が172社（1月末現在）、回収拠点数36,192拠点となり、更にモデル自治体との取り組み、事業系回収拠点へのキャンペーン展開等、回収推進活動の報告があった。

6) 関係省庁の動向について

3月末に制定が予定されている「循環型社会形成推進基本計画案」の内容、産業構造審議会環境部会廃棄物・リサイクル小委員会の「循環型経済システムの高度化に向けて」の最終報告書のまとめがなされたこと等の報告があった。

3. 審議事項

1) 「拡大生産者責任（EPR）に関する電池工業会の考え方」案について審議し、一部修正することで決定された。

2) 「デポジット制度に関する電池工業会の考え方」案について審議し、修正と再協議をすることで決定された。

平成15年度 蓄電池設備整備資格者講習会日程・会場決まる

地震や火災での停電等非常事態に無くてはならない蓄電池設備は、その必要性から消防法施行規則（昭和36年自治省令第6号）でその構造及び技術基準が定められている。平成12年末消防法施行規則の改正に伴う「蓄電池設備」について、総務大臣の認定を受けた認定機関「(社)電池工業会 蓄電池設備認定委員会」として審査、同設備の技術基準の維持に努めている。

長期間使用される蓄電池設備の性能と品質、信頼性を確保する為には、専門知識を有する技術者による保守管理が不可欠であり、この蓄電池設備の維持管理に携わる設備整備技術者の育成を昭和53年より毎年実施している。

1. 平成15年度の「蓄電池設備整備資格者講習」は、6月17日・18日の沖縄県からスタートし、全国9箇所で開催することが決定した。

表:蓄電池設備整備資格者講習実施予定表(平成15年度)

2. 平成15年度講習会の詳細を記した「講習会の手引き」を現在、準備中です。4月初旬には整いますので、受講を希望される方は、「蓄電池設備整備資格者講習実施予定表」に記載の全国各地の申請書提出先又は(社)電池工業会へお問合せ下さい。

又、資格取得後5年毎に受講していただく再講習については、例年通り12地区13会場で行います。詳細はご本人宛に(社)電池工業会から直接、文書でご連絡を致します。なお、当該年度に該当の方で住所変更の届出を忘れていた又は、していない方は大至急、(社)電池工業会の講習担当事務局宛、ご連絡下さい。

表:蓄電池設備整備資格者再講習実施予定表(平成15年度)

蓄電池設備整備資格者再講習実施予定表 (平成15年度)

開催地	講習月日	講習会場		申請期限(4月1日～)
沖縄	5月29日(木)	自治会館	那覇市旭町14番	5月16日
愛知	6月11日(水)	国際会議場	名古屋市熱田区熱田西町1-1	5月23日
岩手	6月27日(金)	岩手県自治会館	盛岡市山王町4-1	5月27日
東京①	7月10日(木)	第2電波ビル	千代田区外神田2-14-10	6月10日
新潟	9月5日(金)	メルパルク新潟	新潟県新潟市川岸町2-1-7	8月5日
北海道	9月12日(金)	北海道建設会館	札幌市中央区北4条西3丁目	8月12日
大阪	9月26日(金)	大阪府農林会館	大阪市中央区馬場町3-35	8月26日
宮城	10月3日(金)	宮城県管工事会館	仙台市青葉区本町3-5-22	9月3日
鹿児島	10月10日(金)	鹿児島県消防会館	鹿児島市山下町13-51	9月10日
徳島	11月5日(水)	徳島経済センター会議室	徳島市西新町2-5	10月6日
東京②	11月14日(金)	第2電波ビル	千代田区外神田2-14-10	10月14日
福岡	12月9日(火)	福岡市民防災センター	福岡市早良区百道浜1-3-3	11月10日
神奈川	12月12日(金)	神奈川県電気工事会館	横浜市中区三吉町4-1	11月17日

注1 受講票と会場案内図の返送は、申込み期限日以降の発送となります。
 受講票が申込期限日以降返送のない場合は、事務局まで問合せください。
 注2 受講者申請手続き後、欠席等の連絡は、(社)電池工業会までお願い致します。 TEL.03-3434-0261

蓄電池設備整備資格者講習実施予定表 (平成15年度)

実施地	実施月日 (定員)	講習会場	申請書提出先	申請期間 (申請方法)
沖縄県	6月17日(火) 18日(水) (120名)	沖縄ハイツ 宜野湾市真志喜3-28-1 TEL.098-898-1212	(社)沖縄県消防設備保守協会 〒900-0024 那覇市古波蔵3-3-17 沖縄復興ビル207 TEL.098-853-6059	5月12日 } 5月23日 (郵便又は持参)
北海道	7月1日(火) 2日(水) (100名)	北海道建設会館 札幌市中央区北4条西3丁目 TEL.011-261-6218	(社)北海道消防設備協会 〒060-0005 札幌市中央区北5条西6-2 札幌センタービル内 TEL.011-205-5951	5月28日 } 6月10日 (郵便又は持参)
宮城県	7月29日(火) 30日(水) (100名)	宮城県管工事会館 仙台市青葉区本町3-5-22 TEL.022-262-6701	(社)宮城県消防設備協会 〒980-0014 仙台市青葉区本町3-5-22 TEL.022-223-3650	6月13日 } 6月27日 (郵便又は持参)
愛知県	8月27日(水) 28日(木) (200名)	愛知県産業貿易館 西館 名古屋市中央区丸の内2-4-7 TEL.052-231-6351	(財)愛知県消防設備安全協会 〒461-0011 名古屋市東区白壁1-50 愛知県白壁庁舎2階 TEL.052-962-0707	7月 2日 } 7月10日 (郵便又は持参)
大阪府	9月24日(水) 25日(木) (200名)	大阪府農林会館 大阪市中央区馬場町3-35 TEL.06-6941-0821	(財)大阪府消防設備協会 〒540-0032 大阪市中央区天満橋京町 2-13 松村ビル TEL.06-6943-7654	8月18日 } 8月29日 (郵便又は持参)
愛媛県	10月28日(火) 29日(水) (50名)	リジェール松山(JA松山) 松山市南堀端2-3 TEL.089-948-5630	(財)愛媛県消防設備保守協会 〒790-0002 愛媛県松山市二番町4-4-4 愛媛県建設会館内 TEL.089-933-1085	9月25日 } 10月15日 (郵便又は持参)
東京都	11月25日(火) 26日(水) (250名)	日本教育会館 一ツ橋ホール 千代田区一ツ橋2-6-2	(社)電池工業会 〒105-0011 港区芝公園3-5-8 機械振興会館 TEL.03-3434-0261	9月16日 } 9月22日 (郵便又は持参)
神奈川県	12月3日(水) 4日(木) (230名)	神奈川県電気工事会館 横浜市中区三吉町4-1 TEL.045-251-4671	(財)神奈川県消防設備安全協会 〒231-0023 横浜市中区山下町1番 シルクセンター2階 TEL.045-201-1908	10月1日 } 11月21日 (郵便又は持参)
福岡県	1月15日(木) 16日(金) (200名)	福岡市民防災センター 福岡市早良区百道浜1-3-3 TEL.092-847-5990	(財)福岡県消防設備安全協会 〒810-0073 福岡県福岡市中央区舞鶴3-1-10 セレス赤門ビル TEL.092-722-1265	12月1日 } 12月26日 (郵便又は持参)

(注) 定員になり次第締め切りますので、申請期間内早めに申請して下さい。

受講料金 ¥25,515(本体-24,300円、税-1,215円)

郵送料金 1部=120円、2部=160円、3~4部=200円、5部=240円、6~7部=270円
8部以上=390円

受講資格 いずれかの資格を有する方

- ①消防設備点検資格者の免状の交付を受けている者
- ②消防設備士【甲種消防設備士(1類~4類)】 【乙種消防設備士(1類~4類)】
- ③建築士 ④電気主任技術者 ⑤電気工事士
- ⑥蓄電池設備に関して3年以上の実務経験を有する者
- ⑦蓄電池設備に関し、上記①~⑥に定める者と同等若しくは同等以上の技能を有する者であることを講習委員会で認められた者

業界動向

***トヨタ自動車&ホンダ** 両社の燃料電池車の民間導入先が明らかになった。トヨタは東京電力、新日本石油、東邦ガスと岩谷産業、ホンダは岩谷産業。

(1月1日付 日刊工業)

***電子情報技術産業協会** 家庭用パソコンのリサイクルの義務化について、廃棄パソコンを回収する事業者を一社に絞り、回収ルート一本化を固める。

(1月6日付 日刊工業)

***環境省** 産業廃棄物と廃家電製品の不法投棄状況を纏める。2002年度不法投棄件数は前年度比12%増、ただし不法投棄量は40%減。

(1月6日付 化学工業日報)

***GM(米)** ハイブリットカーを2007年までに100万台投入する事を正式に発表。尚、トヨタ自動車とホンダの中期目標は、米国では計32万台超。

(1月7日付 日経)

***丸石自転車** 子供を乗せる為の専用自転車に、新たにリチウムイオン電池を採用した電動アシストタイプを追加した。

(1月6日付 日経産業)

***ユニチカ** 特殊フェノール樹脂を活用した射出成形が可能な燃料電池用セパレーターの事業化に乗り出す。

(1月8日付 化学工業日報)

***FDK** インドネシアでのアルカリ乾電池の月産能力を、約2割増の4,200万個に引き上げる。尚当社は03年度、国内外合計のアルカリ乾電池の月産能力を1億個超の体制へ拡充。

(1月8日付 日刊工業)

***松下電器産業** デジカメ専用一次電池ニッケルマンガン電池の新製品として、撮影枚数を同社従来品比15%アップした単3形を3月1日から発売する。

(1月10日付 電波)

***三洋電機** 世界各地で生産する二次電池の主要部材を、中国深センで一括調達する。

(1月10日付 日経)

***環境省** 産業廃棄物不法投棄現場の早期原状回復のための専門家チームを2003年度に設置する。メンバーは警察OB、弁護士、公認会計士等調査と関係法令に精通したメンバーで構成される。

(1月8日付 日経)

***知的財産国家戦略フォーラム** 特許侵害の防止を目的に、知的財産高等裁判所の設置に関する提案(法案)が明らかになる。

(1月10日付 日刊工業)

***燃料電池車** トヨタ自動車、日産自動車等世界の主要自動車メーカーと部品メーカー約20社は、FC車の走行距離をガソリン車並みの500キロメートルに引き上げる技術を共同開発する。

(1月13日付 日経)

***携帯電話** カメラ付き携帯電話の国内販売台数が14日までに1,500万台を突破した。携帯・PHS加入者の五人に一人が使っている事になる。(1月10日付 日経)

***三洋電機** 業界で初めてブレキ充電システムを搭載した電動ハイブリット自転車を3月1日から発売する。尚電池はニッケル水素電池。

(1月15日付 電波)

***三井金属** リチウムイオン電池の正極材料であるマンガン酸リチウムの生産を月産20トン規模で、竹原精錬所で開始した。

(1月16日付 化学工業日報)

***IDC(米ハイテク調査会社)**

昨年10~12月期の世界のパソコン出荷台数が前年同期比4%増の3,843万台になった。この結果昨年の世界出荷台数は前年比1.5%増となり、2年ぶりに前年を上回った。(1月17日付 日経)

***ジップチャージ(東京)** 太陽電池を使った携帯電話向け充電器を開発、2月から発売へ。自然災害等の予備の充電器としても売り込む予定。(1月17日付 日経産業)

***東芝電池** 大電流パルス特性を始め、中・重負荷領域を含め放電性能を向上させたアルカリ乾電池単3形を開発、3月1日から発売する。

(1月17日付 化学工業日報)

***リチウムイオン電池** 携帯電話、ノートPC向けの需要が伸び、2002年の出荷が前年比23%増の7億5千万個になった模様。

(1月17日付 化学工業日報)

***環境省** 二酸化炭素排出削減に向け廃棄物から燃料電池の燃料となる水素を取り出す技術の開発を2003年度から開始する。

(1月18日付 電波)

***トヨタ自動車、キャノン、リコー** 調達する材料部品についてメーカーに有害物質等の使用状況を詳しく計測・報告させる厳密な環境管理を始めた。

(1月19日付 日経)

***日立電線** リチウムイオン電池の極板用に厚さ7マイクロメートルの圧延銅箔を開発した。尚、銅箔を1マイクロメートル薄くする事で電池容量は約1%向上すると言われている。

(1月20日付 化学工業日報)

***経済産業省&環境省** 家電リサイクル法の施行状況を纏めた。全国の指定取引場所が引き取った廃家電品4品目の02年1月から12月までの累計は、807万台で前年同期比7%を上回る結果になっている。(1月21日付 日刊工業)

***環境省** 2010年度までに日本全体のリサイクル率を、現状の約10%から14%に引き上げることを柱とした計画案を纏めた。

(1月24日付 日経)

(注)リサイクル率:瓶などの容器の再利用や、家電製品のプラスチックの再生活用、或いはエネルギー源等に回される割合。

***松下電工** 平成14年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰で内閣総理大臣賞を受賞した。(1月24日付 日経&電波)

***電子情報技術産業協会(JEITA)** 2002年の国内のパソコン出荷台数は前年比11%減の1,002万7千台となった。尚、下げ幅は同協会が統計を取り始めて以来、最大の下げ幅である。

(1月24日付 日経&日経産業)

***環境省** 2000年度の一般廃棄物の全国排出量は5,236万トンで過去最多となった。但し、ゴミの一部を再利用するリサイクル率が14.3%となり埋め立てに回すゴミの最終処分量は1,051万トンと36万トン減少した。

(1月24日付 日経夕刊)

***三洋電機** 太陽電池の新工場を貝塚市(大阪府)に建設する。2004年1月から発電量換算で年間30メガワットの太陽電池を生産する。(1月28日付 日経)

***松下電池工業** 世界で初めて、環境負荷が非常に小さい植物系「生分解性プラスチック」を全面使用した乾電池のプリスターバックを開発した。第一弾としてアルカリ乾電池単3形の4本プリスターバックに採用、6月5日(世界環境デー)から発売する。

(1月30日付 電波)

***オハラ** リチウムイオン伝導性を持つガラスセラミックス紛と有機ポリマーを複合化したリチウムイオン電池の電解質用のフレキシブルシートを開発した。

(1月30日付 化学工業日報)

***経済産業省** 家庭で使う太陽光発電の補助を03年度以降も3年間継続する事を決める。

(1月30日付 日刊工業)

***ガートナー・データクエスト(米)** 2002年の世界のPDA出荷台数は1,207万台で9%減になった。但し、ソニー、東芝等日本勢は健闘中。(1月30日付 日経産業)

***埼玉県工業技術センター** 廃棄物処理の大空リサイクルセンター(東京)と協力して工業排水等に含まれる鉛を効率的に除去する吸着剤を開発した。

(1月30日付 日経産業)

***光栄化学工業** 2004年春を目処に、ハイブリッド車等に使用されるキャパシター用の高性能電解液を量産へ。

(1月30日付 日経産業)

***環境省、経済産業省&厚生労働省** 生態系の保護を目指し、化学物質の製造、輸入に新たな規制を導入する方針を決めた。

(1月31日付 日経&日経産業)

***環境省** 「産廃税」について産業廃棄物行政と政策手段としての税のあり方に関する検討会を設置、31日に第一回会合を開く。

(1月31日付 日刊工業)

***住商工ア・ウォーター(東京)** 燃料電池自動車に水素を供給する移動式の水素ステーションを開発した。既にトヨタ自動車、日産自動車への採用が決まっている。

(1月31日付 日経産業)

***新神戸電機** 4月1日付で、臼井正信常務が新社長に昇格する旨を発表した。

(1月31日付 日経他)

平成15年 2月度の電池工業会活動概要

部会	2月度開催日	委員会・会議	主な審議、決定事項
特別会議	18日(火)	環境総合委員会	*EPR・デポジットに関する電池工業会の考え方を纏めた
	19日(水)	蓄電池設備整備資格者認定委員会	*平成14年度まとめと平成15年度計画
二次電池部会	4日(火)	二次電池リサイクル(委) 拡大事務局会議	*産業用電池新リサイクルスキーム審議・申請準備
	5日(水)	(自)リサイクル特別プロジェクト	*自動車電池(二輪含む) 新リサイクルスキーム検討
	6日(木)	(自)リサイクル特別プロジェクト	*自動車電池(二輪含む) 新リサイクルスキーム検討
	6日(木)	自動車用電池委員会	*自動車電池(二輪含む) 新リサイクルスキーム審議
	7日(金)	産業用電池小委員会	*産業用電池新リサイクルスキーム審議
	12日(水)	二次電池リサイクル(委) 拡大事務局会議	*産業用電池新リサイクルスキーム審議、申請準備
	12日(水)	自動車鉛分科会	*1月開催標準化委員会指摘事項(SBA指針改正案)の回答内容
	13日(木)	(自)リサイクル特別プロジェクト	*自動車電池(二輪含む) 新リサイクルスキーム検討
	13日(木)	小形鉛分科会	*標準化委員指摘事項(SBA指針改正案)の再回答内容
	14日(金)	(自)リサイクル特別プロジェクト	*自動車電池(二輪含む) 新リサイクルスキーム検討
	14日(金)	(自)技術サービス小委員会	*昼間点灯、自動車用電池高温化問題に対する対応方法
	17日(月)	(自)需要予測小委員会	*平成14年から16年の需要予測作業
	18日(火)	電気車鉛分科会	*標準化委員指摘事項(SBA指針改正案)の回答内容
	18日(火)	(自)リサイクル特別プロジェクト	*自動車電池(二輪含む) 新リサイクルスキーム検討
19日(水)	(自)リサイクル特別プロジェクト	*自動車電池(二輪含む) 新リサイクルスキーム検討	
小形二次電池部会	19日(水)	据置鉛分科会	*H15年度末に完成させるJIS(ベント形据置鉛蓄電池)改正案
	20日(木)	二次電池リサイクル(委) 拡大事務局会議	*産業用電池新リサイクルスキーム審議・申請準備
	20日(木)	経済産業省・環境省との合同検討会	*予備申請中の現行スキームの問題点・今後の対応策検討
	26日(水)	資材委員会	*再生鉛の利用について
	26日(水)	(自)直需小委員会	*自動車用電池の新リサイクルスキームについて
	27日(木)	第三者機関設立準備委員会	*初回会議。基本方針・計画の審議。
	27日(木)	(自)リサイクル特別プロジェクト	*自動車電池(二輪含む) 新リサイクルスキーム検討
	28日(金)	(自)リサイクル特別プロジェクト	*自動車電池(二輪含む) 新リサイクルスキーム検討
	12日(水)	小形シール鉛分科会	*回収率算定方法及び回収率目標の検討など。分科会運営について
	12日(水)	リチウム二次分科会	*IEC統合機械試験、統合リチウム規格、IEV用語の審議
	13日(木)	アルカリ分科会	*回収率算定方法及び回収率目標の検討など
	14日(金)	ニカド・ニッケル水素分科会	*IEC統合機械試験、組電池規格、IEV用語の審議
	19日(水)	安全性ガイドライン策定WG	*IEEE規格審議内容の報告、ガイドブック最終版の確認
	20日(木)	再資源化委員会	*各分科会報告、回収率目標の検討など
21日(金)	小形二次電池技術委員会	*分科会、WG審議内容の確認、IEV用語の日本対応審議	
25日(火)	業務委員会	*需要予測(2003年、2004年、2005年)など	
一次電池部会	5日(水)	循環技術委員会	*次回の再資源化技術調査訪問先を決定
	7日(金)	資材委員会	*平成14年度のまとめと平成15年度の活動計画
	19日(水)	環境対応委員会	*一次電池の問題点を部会全体で取り組むよう提案を纏める決定
	21日(金)	電池業務委員会	*平成14年度のまとめと平成15年度の活動計画
	26日(水)	IEC小委員会	*IEC規格 応用試験、時間公差、IEV用語等の審議
	26日(水)	JIS小委員会	*JIS C 8501(マンガン乾電池)改正案の審議
	27日(木)	器具委員会	*平成14年度のまとめと平成15年度の活動計画

●●●●● 新製品ニュース ●●●●●

デジタルカメラ使用時の撮影枚数^{※1}が 当社従来品^{※2}比約15%アップを実現 ニッケルマンガン電池単3形を発表

松下電器産業(株)は、デジタルカメラ使用時の撮影枚数^{※1}を当社従来品^{※2}比約15%アップした、ニッケルマンガン電池単3形を、3月1日から発売します。

昨年、デジタルカメラの急速な普及に対応して、当社が業界に先駆けて発売した、デジタルカメラ専用一次電池^{※3}であるニッケルマンガン電池は、充電する必要がなく、旅先で購入後、すぐ使える利便性と従来のアルカリ乾電池に比べ大幅に撮影枚数が増加するという特長により、好評を得ています。

本製品は、電池正極材料のオキシ水酸化ニッケルと電解溶液を増量することにより、高出力をさらに維持し、撮影枚数^{※1}が当社従来品^{※2}比約15%アップを実現しました。また、デジタルカメラの予備電源として、業界で初めて^{※5}、携帯に便利な保管ケース等の機能を持たせた新包装パッケージを開発しました。

— 特長 —

1. デジタルカメラでの撮影枚数^{※1}が当社従来品^{※2}比、約15%アップ
2. デジタルカメラでの撮影枚数^{※1}アルカリ乾電池^{※4}使用時、約27枚に対し本製品は、約95枚と大幅アップして、コストパフォーマンス的にもお得
3. 業界初^{※5}、携帯に便利な機能を持たせた新包装パッケージを採用
パッケージは、再生PET使用の同一素材で、環境に配慮

・新パッケージの特長

- ①保管ケース機能付き ②携帯時にコンパクトにできるミシン目入り ③2本ずつの簡易内包装

※1 単3形2本使用、230万画素デジタルカメラ使用。30秒に1枚撮影、LCD常時 ON、フラッシュ発光率100%、温度20℃
(当社調べ。機種・撮影状態により撮影枚数は異なる場合があります。)

※2 当社前年発売品

※3 一次電池とは「使いきりの電池」です。充電はできません。

※4 当社アルカリ乾電池単3形LR6G比

※5 2003年1月9日現在。電池のプリスターパッケージとして。



デジタルカメラ専用一次電池「ニッケルマンガン電池」 ZR6D
(2003年3月 松下電器・松下電池)

●●●●● 新製品ニュース ●●●●●

高性能アルカリ乾電池 新発売

東芝電池株式会社(社長 鈴鹿 芳朗)は、大電流パルス特性をはじめ重・中負荷領域も含め放電特性を向上させた高性能アルカリ乾電池単三形を開発し、3月1日から発売します。

平成14年度の筒型乾電池の需要は、国内再販市場で約15.3億個、その内アルカリ乾電池は約11.1億個と70%以上を占めると予測されます。(当社予測)

特に幅広い用途で使われている単三形は高機能化するデジタル機器の普及拡大によりさらなる高性能化が求められています。

この様なニーズに応え、新製品は、正極組成および負極組成の最適化を行う事により、導電性および利用率を向上させ大電流パルス放電性能を大幅に向上。さらに以前よりご好評を頂いている重・中負荷特性も向上させました。

また、デジタルカメラ用ニッケル乾電池として優れた高出力特性を発揮する「GigaEnergy」の技術を随所に採用し、急速に需要が拡大しているデジタルカメラでは、高機能型大電流パルスタイプで当社従来品比約40%アップを実現いたしました。

携帯用MDプレーヤー、携帯用ゲーム機および電動玩具など重・中負荷領域でも従来品比で放電性を5~10%向上させあらゆるユーザーニーズに高い次元でお応えできる優れた総合性能を発揮いたします。



デジタル機器のヘビーユーザーに朗報!

業界最速^{*1}の超急速1時間充電器を発売!

業界最高レベルの高容量単三形ニッケル水素電池「Ni-MH 2100」を約1時間で充電可能

三洋電機株式会社ソフトエナジーカンパニーでは、昨年9月21日に、世界に先駆け、高容量単三形ニッケル水素電池「2100シリーズ」(Typ.2100mAh、Min.2000mAh)と急速充電器(充電時間は、2本で約105分、4本なら約230分)を発売し、市場から好評を得ていますが、今回、もっと早く充電したいというお客様のニーズを追及し、充電にかかる時間を大幅に短縮した商品、『ニッケル水素電池「Ni-MH 2100 シリーズ」対応超急速1時間充電器(NC-M60)/充電器セット(N-M604S)』を発売します。

— 特長 —

1. 業界最速^{*1}の超急速1時間充電を達成

業界最高レベルの高容量単三形ニッケル水素電池「Ni-MH 2100 シリーズ」(Typ.2100mAh^{*2}、Min.2000mAh^{*3})2個を約64分で、4個なら約140分で充電可能。

2. 「残容量チェック機能」をプラス

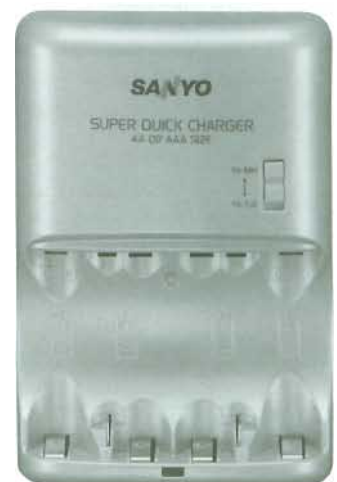
電池の残容量が、3段階の色で確認できる「残容量チェック機能」をプラス

3. 充電エラーと過充電を高精度に防止

充電エラーと過充電を高精度に防止する充電制御と、充電をストップする保証機能を内蔵。さらに、マンガン乾電池やアルカリ乾電池が誤って挿入された場合には、充電をストップする保護機能を内蔵。

4. 持ち運びに便利な電源プラグ収納式でコンパクトな設計

小型・軽量化を目指し、当社独自のパルス充電及び電流段階別充電方式を開発し、大電流充電による電池の発熱の軽減と電池にやさしい制御を図ることで、電源プラグを本体に収納でき、質量も約145gというコンパクトな設計を実現。



超急速充電器 NC-M60

※1 単三形ニッケル水素電池 (typ.2100mAh) 対応の充電器の充電時間において 2003年2月3日現在 当社調査結果
※2 JIS C8708 1997 (4.2.1) の充放電条件に基づく、電池の実力容量
※3 JIS C8708 1997 (4.2.1) の充放電条件に基づく、電池の最小容量

12月度電池および器具販売実績（機械統計）

（平成14年12月）

単位：数量＝千個、金額＝百万円（本年よりマンガン乾電池の単二がその他に含まれました）

	単 月				1月～当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
電池・器具総合計	620,075	67,869	104%	99%	6,423,672	702,415	100%	96%
全電池合計	619,277	66,330	104%	100%	6,413,406	685,534	100%	96%
一次電池計	472,838	17,635	104%	93%	4,757,936	169,193	101%	98%
マンガン乾電池計	111,656	2,592	92%	83%	1,149,787	23,396	96%	90%
単一	18,054	929	92%	86%	134,778	6,962	93%	90%
単三	52,852	898	79%	76%	583,937	8,842	88%	84%
その他	40,750	765	116%	91%	431,072	7,592	111%	99%
アルカリ乾電池計	179,638	9,491	98%	90%	1,440,331	77,042	96%	92%
単三	113,984	5,083	99%	92%	910,162	41,454	95%	89%
単四	33,864	1,674	96%	91%	299,009	14,573	94%	87%
その他	31,790	2,734	93%	86%	231,160	21,015	105%	105%
酸化銀電池	80,272	934	113%	109%	987,636	11,036	104%	102%
リチウム電池	94,039	4,314	132%	101%	1,099,347	54,183	110%	108%
その他の乾電池	7,233	304	150%	133%	80,835	3,536	164%	161%
二次電池計	146,439	48,695	102%	103%	1,655,470	516,341	98%	96%
鉛電池計	4,016	14,567	96%	94%	41,455	139,935	94%	91%
自動車用	2,715	9,843	98%	90%	24,819	82,221	101%	94%
二輪用	405	790	100%	113%	4,612	8,968	94%	100%
小形シール	679	771	82%	91%	9,443	10,074	80%	83%
その他	217	3,163	112%	107%	2,581	38,672	89%	86%
アルカリ電池計	84,991	10,398	86%	94%	1,042,671	125,440	88%	90%
完全密閉式	40,375	4,650	100%	100%	492,726	57,120	93%	98%
ニッケル水素	44,568	5,432	77%	89%	549,535	64,004	84%	84%
その他のアルカリ電池	48	316	300%	93%	410	4,316	210%	106%
リチウムイオン電池	57,432	23,730	138%	113%	571,344	250,966	125%	101%
器具計	798	1,539	73%	77%	10,266	16,881	90%	88%
携帯電灯	373	362	66%	75%	5,445	5,438	87%	90%
電池器具	425	1,177	81%	78%82%	4,821	11,443	92%	87%

12月度電池輸出入実績（財務省貿易統計）

（平成14年12月）

単位：数量＝千個、金額＝百万円（少数以下四捨五入の為、合計が合わないことがあります）

	単 月				1月～当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
全電池合計（輸 出）	312,731	33,506	109%	108%	3,460,890	354,661	103%	98%
一次電池計	176,769	3,479	110%	102%	2,001,611	42,136	101%	101%
マンガン	56,504	444	103%	101%	641,521	5,971	107%	121%
アルカリ	19,689	403	84%	83%	202,204	4,295	69%	81%
酸化銀	36,583	468	107%	106%	431,701	5,223	103%	101%
リチウム	60,252	2,087	134%	106%	692,739	25,699	109%	101%
空気亜鉛	2,336	40	91%	75%	27,879	557	121%	125%
その他の一次	1,405	36	217%	118%	5,567	391	61%	80%
二次電池計	135,963	30,027	107%	109%	1,459,279	312,525	105%	98%
鉛蓄電池	300	700	74%	103%	4,495	8,344	73%	81%
ニカド	29,966	3,293	90%	105%	409,383	38,593	96%	100%
ニッケル鉄	1	1	1171%	161%	53	18	23%	53%
ニッケル水素	38,202	3,869	80%	84%	422,781	41,691	85%	75%
リチウムイオン	53,713	19,575	151%	118%	484,459	199,092	140%	107%
その他の二次	13,779	2,588	131%	106%	138,109	24,786	127%	89%
全電池合計（輸 入）	58,270	4,510	127%	115%	568,848	47,455	118%	111%
一次電池計	54,622	1,603	125%	130%	527,658	17,292	120%	137%
マンガン	11,538	155	91%	87%	118,666	1,619	94%	92%
アルカリ	39,811	652	151%	130%	367,278	7,283	132%	126%
酸化銀	184	4	37%	49%	2,952	64	67%	66%
リチウム	1,200	130	150%	101%	18,697	1,543	120%	124%
空気亜鉛	603	24	234%	212%	4,349	167	133%	120%
その他の一次	1,285	638	42%	157%	15,716	6,616	125%	183%
二次電池計	3,648	2,907	157%	108%	41,190	30,164	100%	101%
鉛蓄電池	537	1,507	110%	93%	5,824	15,221	103%	95%
ニカド	1,511	273	112%	61%	15,733	4,512	109%	94%
ニッケル鉄	0	0	0%	0%	157	16	207%	35%
ニッケル水素	-	-	-	-	-	-	-	-
リチウムイオン	-	-	-	-	-	-	-	-
その他の二次	1,600	1,127	357%	178%	19,475	10,416	93%	114%